

令和 6 年度 学校評価シート

学校名：	紀央館高等学校	校長名：	西垣内 郁久
------	---------	------	--------

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する） 不易流行を意識しながら伝統を引き継ぎ、新たな歴史を創造するため、生徒・教職員・家庭・地域との連携を大切に、特色ある教育の提供に努める。基礎・基本を身につけ、自信と誇りを持って社会に飛躍し、人々に信頼され持続可能な地域社会に貢献できる人間を育成する。自ら目標をたて、希望を持って楽しく学び続ける(希望)。平凡なことをおろそかにせず、基礎・基本をしっかりと身につける(徹底)。自己の価値に気づき、人々の価値を尊重し、人々に愛され信頼され、尊敬される人間性を磨き続ける(価値)。	学校評価の公表方法 きのくにコミュニティスクール（学校運営協議会）や各種委員会などの協議内容を確認・整理し、ホームページなどで広く公表する。教育活動をマンスリータイムズや、季刊の新成会だよりなどで記事として掲載する。	現状・進捗度 <table><tr><td>A</td><td>十分に達成している。（80%以上）</td></tr><tr><td>B</td><td>概ね達成している。（60%以上）</td></tr><tr><td>C</td><td>あまり十分でない。（40%以上）</td></tr><tr><td>D</td><td>不十分である。（40%未満）</td></tr></table>	A	十分に達成している。（80%以上）	B	概ね達成している。（60%以上）	C	あまり十分でない。（40%以上）	D	不十分である。（40%未満）
A	十分に達成している。（80%以上）									
B	概ね達成している。（60%以上）									
C	あまり十分でない。（40%以上）									
D	不十分である。（40%未満）									

自己評価（分析、計画、取組、評価）								
番号	計画・取組				評価（3月17日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策	
1	基礎学力向上と、自ら設定した目標にむけ主体的・協働的に学ぶ姿勢を育てる特色ある教育を展開する。	A	日々の授業の充実と ICT 機器を有効活用した授業実践の工夫	生徒個々の成績推移と生徒による授業評価	A	ICT 機器が効果的に活用され、生徒による授業評価も肯定的な評価が多くなっている。	身近にロールモデルとなる生徒を育成することで、クラスから年次、学校全体へ波及させ、生徒の意欲向上を図る。ICT 機器の活用をさらに促進していく。	
			基礎・基本的な知識・技能の定着と成績不振者への対応	成績不振者数の推移と欠席・欠課時数の把握	B			欠席・欠課時数が多い生徒の割合が以前より高くなっている。
			多様な選択が可能な教育課程を活かした目標の設定と実現への支援	進路希望状況及び結果の把握・検証	A			進学・就職ともに高い目標を設定し実現した生徒が多くなった。
2	地域に開かれた学校づくりを行うとともに、地域に愛され持続可能な地域社会に主体的・協働的に貢献できる人材を育成する。	A	CLT(地域学習期間)の充実	生徒による CLT のレポート・発表内容の検証	A	全体場で発表する機会を設定することで調査内容の質の向上につながった。	積極的な情報発信により、学校への理解がより深まるよう努める。様々な分野で地域との協働活動を行っているが、新たな取組を企画し、活動の充実に努めていく。	
			地域住民や団体との協力と協働活動の推進	活動の充実と新たな活動への取組状況	B			地域の理解と協力の下、様々な分野で協働活動を行っている。
			地元企業との協力と協働活動の推進及び就職斡旋	地元企業への就職希望者数及び就職率	A			地元企業を中心に、県内への就職者数及び就職率が高い。
3	自他の命と権利を尊重し、多様性を認め合う社会の形成者としての資質を育成する。	B	必要に応じた面談の実施と生徒個々の適切な状況把握	キャリアサポート・つなぎ愛シートの作成	B	生徒個々の状況を把握し、個に応じた対応を継続的にやっている。	生徒が習得している知識と経験をさらに深め、より高い意識を醸成していく。年次と各分掌との連携をはかり、実践的な取組を計画・立案し実施していく。	
			平和・人権講演会の計画・実施および防災教育の推進	講演会・避難訓練実施後の生徒の感想文など	A			3年間を見通した目標を設定し計画を実施している。
			現職教育の実施と情報共有及びケース会議の開催	生活アンケート・保健室使用状況等の検証	B			生徒の実情を把握し、迅速な対応を実施している。
4	働き方改革を推進し、教員の資質・能力向上を支援するため組織的に学校運営を充実させる。	B	教員個々の能力を高めるため目標に沿った研修の計画と実施	校内外での研修内容・成果の検証と参加状況	B	経年研修を中心に、個々の能力や必要に応じた研修に取り組んでいる。	ICT 機器の有効活用をさらに進め、資料や情報の共有をはかることで業務の効率化を行う。働き方改革を推進し、教職員が自発的に研修に努め、自身の資質・能力を向上させるため時間を確保する。	
			研究授業や公開授業などの実施と協議及び資料・情報の共有	公開授業や研究授業の実施数と前年比	A			教員による自発的な公開授業や研究授業が実施されている。
			校務分掌および各種委員会の見直しと組織改編・ICT の活用	組織効率化の進捗度教員のアンケート調査	B			ICT 機器の活用による資料や情報の共有を促進している。

学校関係者評価（2月18日実施）

- ・校舎、校庭がきれいで良い学習環境が整えられている。生徒は授業に前向きに取り組んでいる。教職員の苦勞、苦心に敬意を示したい。
- ・学校として、保護者評価の「生徒は明るく生き生きとした学校生活を送っているか。」で肯定的な意見が多いのが一番重要だと思う。保護者にとって、生徒が安心、安全な環境で楽しく学校生活を送ることが一番の評価ポイントだと思われる。学校評価については、今後も同じ内容で続けて実施してほしい。長期的に見ていくと色々な変化や問題点に気づく。経年変化を見てほしい。
- ・教員評価に関する回答「身だしなみ指導や規律遵守について、全教職員の共通理解と協力体制ができているか。」について、全員の生徒と良い関係性を築くのは難しく、集団の中で全員が満足することが難しいなか、肯定的な意見の割合が 54.8%もあるのは相当に高いと評価できる。
- ・学校の活性化に向けて色んな取組をされていて、特色ある学校づくりに向けて、日々指導にあたっている。
- ・紀央館高校への進学希望者多い。一人一人の良さを活かしていただいている。課題のある生徒にも熱心に対応し手厚く指導している。生徒数も減ってくる中、特色ある教育を進めてほしい。
- ・新聞などに載っている生徒の活躍している姿を見るのは嬉しい。地域へのアピールを積極的に行っていて、生徒のやる気向上にもつながると思われる。今後も積極的な外部への発信を行ってほしい。
- ・特殊詐欺、お金、人間関係等について、社会に出るにあたっての教育をお願いしたい。